

社会学専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時
理論社会学特論Ⅰ	ハーバーマスの社会理論	2	永井 彰	後期 木曜日 2講時
理論社会学特論Ⅱ	リスクと無知の社会学	2	小松 丈晃	後期 火曜日 4講時
社会変動学特論Ⅰ	死と死にゆくこと社会学	2	田代 志門	後期 水曜日 4講時
社会変動学特論Ⅱ	環境社会学の理論と実践	2	青木 聡子	前期 火曜日 5講時
社会学特論Ⅰ	質的フィールドワーク概論	2	徳川 直人	前期 水曜日 3講時
社会学特論Ⅱ	ディスコース社会学の基礎と実践	2	佐藤 哲彦	通年集中 その他 その他
社会学特論Ⅲ	日本の思想遺産・主婦論争を読む	2	妙木 忍	後期 水曜日 2講時
社会変動学研究演習Ⅱ	病いの語り研究の可能性	2	田代 志門	前期 水曜日 2講時
社会変動学研究演習Ⅳ	記憶継承の社会学	2	青木 聡子	後期 火曜日 5講時
理論社会学研究演習Ⅰ	リスクと不確実性の社会学	2	小松 丈晃	前期 火曜日 2講時
理論社会学研究演習Ⅳ	地域社会学の理論と論点	2	永井 彰	後期 水曜日 5講時
社会学研究実習Ⅰ	社会調査実習	2	青木 聡子	前期 金曜日 3講時 前期 金曜日 4講時
社会学研究実習Ⅱ	社会調査実習Ⅱ	2	青木 聡子	後期 金曜日 3講時 後期 金曜日 4講時

科目名：理論社会学特論 I / Theoretical Sociology (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：永井 彰

コード：LM24209, 科目ナンバリング：LIH-SOC601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ハーバーマスの社会理論
2. Course Title (授業題目)：Social Theory of J. Habermas
3. 授業の目的と概要：ハーバーマス社会理論を社会学理論の展開史のなかに位置づけその特徴を明らかにするとともに、ハーバーマス社会理論の論理構造を明示化し、その「可能性の中心」について検討する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an overview of the logic of the social theory of Habermas, to help students learn about sociological concepts and theory.
5. 学習の到達目標：ハーバーマス社会理論の論理構造について理解できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help understand the logic of the social theory of Habermas.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. ハーバーマス研究の視座と方法
 3. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (1)
 4. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (2)
 5. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (3)
 6. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (4)
 7. コミュニケーション行為理論の論理構造 (1)
 8. コミュニケーション行為理論の論理構造 (2)
 9. コミュニケーション行為理論と公共圏論
 10. コミュニケーション行為概念の再規定
 11. 生活世界論の再構成
 12. 生活世界とシステム
 13. ハーバーマスの社会理論の視座と方法
 14. 再構成的社会学の可能性
 15. 講義のまとめ
8. 成績評価方法：

(○) 期末レポート [50%] (○) その他 (受講票の提出など) [50%]
9. 教科書および参考書：

永井 彰『ハーバーマスの社会理論体系』東信堂、2018 年。
10. 授業時間外学習：授業前に、教科書の該当箇所を読んでおくこと。
授業後に、レジュメを参照しながら、教科書の該当箇所を読むこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：理論社会学特論Ⅱ／ Theoretical Sociology (Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：小松 丈晃

コード：LM22409, 科目ナンバリング：LIH-SOC602J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：リスクと無知の社会学

2. Course Title (授業題目)：Sociology of Risk and Ignorance

3. 授業の目的と概要：講義形式で進める授業である。現代社会は、自然災害と科学技術が連動しあう複合災害のリスクに備えなければならない。この授業では、社会的なリスクや安全に関する研究を概観しながら、複雑化する現代社会におけるリスクとのつきあい方について考えていきたい。最初に、社会学におけるリスクに関する議論を概説し、その後、科学論「第三の波」等、科学社会学の展開状況もふまえながら、科学的専門知の有様について考察する。最後に、東日本大震災をはじめとする超広域複合災害を念頭におきながら、リスクと信頼と無知（想定外）の間の捻れた関係

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This is a lecture-centered course.

We need to prepare against the risk of complex disasters in which the natural disaster and technological crisis occur simultaneously. This course is designed to help students understand the outline of sociological risk theories and gain the perspective needed to discuss the way to cope with the new risks that face us. First, the sociological risk theories are reviewed. Then the public's confidence in science and the responsibility of the experts will be discussed. Finally, we consider the distorted relationship between risk, trust(or confidence) and ignorance and the critical problems resulting from this relationship.

5. 学習の到達目標：・現代社会が直面するリスクとのつきあい方について、自分なりに考察できる手がかりを得る。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course is designed to help students gain the perspective needed to discuss the way to cope with the new risks.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. リスク論事始め
2. リスク社会学再訪—U. ベックの社会学理論の検討—
3. 社会学システム論によるリスク研究—N. ルーマンについて—
4. メアリー・ダグラスのリスク論とその影響
5. リスクと道徳 (1)
6. リスクと道徳 (2)
7. リスク社会と信頼 (1)
8. リスク社会と信頼 (2)
9. リスクの社会的増幅・減衰の枠組み (SARF)
10. リスクガバナンスの考え方 (1)
11. リスクガバナンスの考え方 (2)
12. リスクと信頼の捻れた関係—新制度派組織論の視点—
13. 「想定外」の社会学—「無知」とどうつきあうか— (1)
14. 「想定外」の社会学—「無知」とどうつきあうか— (2)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業終了後のミニットペーパーへの記入内容と平常点 40%+レポート提出 60%で評価

9. 教科書および参考書：

教科書はありません。参考書は、授業の各トピックに応じて、参考にすべき文献を適宜指示します。

10. 授業時間外学習：授業において、適宜、自宅で行うべき学習課題を出す予定です。

授業時間外での資料収集に基づいた中間レポートも提出してもら予定です。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：社会変動学特論 I / Theory of Social Change (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター： 単位数：2

担当教員：田代 志門

コード：LM23406, 科目ナンバリング：LIH-SOC603J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：死と死にゆくことの社会学

2. Course Title (授業題目)：Sociology of death and dying

3. 授業の目的と概要：現代社会における死の問題の特徴は、個人の選択の強調と医療の関与の増大にある。本講義では、主に終末期医療に関わる様々なトピックを取り上げ、こうした現状を批判的に捉え直すことを試みる。なお、受講生には授業で学んだことを活かして死に関わる興味深い現象を自ら見出し、その背景や意味について考察することが求められる。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course provides an overview of ethical and legal issues in end-of-life care in contemporary Japan from a sociological perspective.

5. 学習の到達目標：終末期医療の現場で生じている様々な課題について基礎的な知識を得るとともに、それらの問題を文化や社会構造と関連づけて理解することができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The aim of this course is to encourage students to think about issues of death and dying from a sociological perspective.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業の進め方について
2. 現代社会における死 (1)
3. 現代社会における死 (2)
4. 「死ぬ権利」の社会学 (1)
5. 「死ぬ権利」の社会学 (2)
6. 中間まとめ
7. 終末期ケアの社会学 (1)
8. 終末期ケアの社会学 (2)
9. 終末期ケアの社会学 (3)
10. 死生観の社会学 (1)
11. 死生観の社会学 (2)
12. 死生観の社会学 (3)
13. 死と死にゆくことの現在 (1)
14. 死と死にゆくことの現在 (2)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業時の平常点 50%、課題レポート 50%

9. 教科書および参考書：

田代志門『死にゆく過程を生きる——終末期がん患者の経験の社会学』（世界思想社、2016 年）

浮ヶ谷幸代・田代志門・山田慎也編『現代日本の「看取り文化」を構想する』（東京大学出版会、2022 年）

トニー・ウォルター『いま死の意味とは』（岩波書店、2020 年）

10. 授業時間外学習：適宜、授業で指示した課題に取り組む。報告を求められた際には、教科書・参考書以外の関係する文献・資料にも目を通して報告資料を作成する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

受講者は初回に必ず出席してください。出席できない場合は、事前にメールで連絡してください。

科目名：社会変動学特論Ⅱ／ Theory of Social Change(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：前期 火曜日 5講時

セメスター：単位数：2

担当教員：青木 聡子

コード：LM12508, 科目ナンバリング：LIH-SOC604J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：環境社会学の理論と実践

2. Course Title (授業題目)：Theory and practice of environmental sociology

3. 授業の目的と概要：環境社会学の課題は、環境問題のメカニズムの解明や自然環境の保全の方法を探ることにとどまらない。歴史的環境（街並みや景観）、食と農、震災復興、科学技術とリスク、ツーリズムなど、さまざまな対象を扱ってきた。この授業では、それらさまざまな環境社会学の研究に学び、環境社会学の理論と方法を理解することを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The challenges of environmental sociology are not limited to elucidating the mechanisms of environmental problems and finding ways to conserve the natural environment. It has dealt with a variety of subjects, including the historical environment (cityscapes and landscapes), food and agriculture, disaster recovery, science and technology and risks, and tourism. The purpose of this class is to understand the perspectives and analytical methods of environmental sociology while covering various environmental sociology studies.

5. 学習の到達目標：環境社会学の理論と方法を理解し、さまざまな対象に応用する考え方を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goal of this class is for students to understand the theories and methods of environmental sociology and acquire ways of thinking that can be applied to a variety of subjects.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 イントロダクション—環境社会学とは何か？
- 2 環境社会学の理論(1)—被害・加害構造論①
- 3 環境社会学の理論(2)—被害・加害構造論②
- 4 環境社会学の理論(3)—受益圏・受苦圏論①
- 5 環境社会学の理論(4)—受益圏・受苦圏論②
- 6 環境社会学の理論(5)—社会的ジレンマ論①
- 7 環境社会学の理論(6)—社会的ジレンマ論②
- 8 中間のまとめ
- 9 環境社会学の方法(1)—災害をとらえる
- 10 環境社会学の方法(2)—震災復興をとらえる
- 11 環境社会学の方法(3)—食と農をとらえる
- 12 環境社会学の方法(4)—街並みや景観をとらえる
- 13 環境社会学の方法(5)—合意形成を考える
- 14 環境社会学の方法(6)—NPO／ボランティアを考える
- 15 まとめ

8. 成績評価方法：

授業での報告およびディスカッションへの参加 40%、課題レポート 60%

9. 教科書および参考書：

テキスト：時間ごとに文献を指定します。

参考書：授業の際に適宜紹介します。

10. 授業時間外学習：指定されたテキストを事前に読んで、自分なりに論点を整理しておいてください。授業中に出される課題のために授業時間外の作業を要する場合があります。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

初回には必ず出席してください。やむを得ず欠席する場合は、事前にメールで連絡してください。

科目名：社会学特論 I / Sociology(Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：徳川 直人

コード：LM13306, 科目ナンバリング：LIH-SOC605J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：質的フィールドワーク概論
2. Course Title (授業題目) : Methods of Qualitative Fieldwork in Sociology
3. 授業の目的と概要：社会学における質的方法の理論と方法について、より深く学ぶ。参加者はオリジナル教材を読み、資料収集、日常観察、フィールドノーツなどの実践を試みることで、理解を深める。その基礎のうえにたつて、モダンバージョンの理論・方法とポストモダンバージョンの理論・方法とのちがいについて学び、新しい基準、倫理なども理解する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, students will learn methods and theories in sociological qualitative inquiry in deeper meaning, and understand them through reading texts, and some practice of documents collection, observation of everyday life, and writing fieldnotes. On this ground, students will learn the difference between the modern version and the post-modern version of qualitative inquiry, and understand new criteria, ethics, and responsibilities as a researcher.
5. 学習の到達目標：1) 質的研究法の技法、考え方、意義と限界が、より深く理解できるようになる。
2) フィールドワークやインタビューを実践できる必須素養が身につく。
3) 調査のモラルと倫理、責任について、より深く考慮できるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : Through this course students will become able to 1) understand methods and theories of qualitative inquiry with their significance and limits in detail, 2) acquire enough knowledge to conduct some fieldwork or interview, and 3) make deeper consideration on morals, ethics and responsibilities as a researcher.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
以下の順に講じる。各項目についての下読みおよび宿題が必須である。毎回の授業で参加者はキーワードの説明や質問を求められる。学期末には試験ではなくレポートを課す。
 1. 質的分析法入門
 2. 感受概念
 3. 方法としてのフィールドノート
 4. 非構造的・半構造的インタビューと調査票の設計
 5. 聞き書き
 6. インタビュー
 7. 自然主義的観察
 8. 参与観察
 9. グラウンデッドな接近法
 10. エスノメソドロジー
 11. エスノグラフィー
 12. 事例分析とモノグラフ
 13. 生活史とヒューマン・ドキュメント
 14. アクション・リサーチ
 15. 調査倫理
8. 成績評価方法：
平常点 (50%) と学期末レポート (50%) を総合的に加味して評価する。
9. 教科書および参考書：
デンジン&リンカン『質的研究ハンドブック』、エマーソンら『方法としてのフィールドノート』(1995)、シュワント『質的研究用語事典』(2007)、細谷『現代と日本農村社会学』(1998) など複数を教室にて指示する。また、教材の読み物としてオリジナル資料を作成する。
Books and papers will be introduced in class, such as Handbook of Qualitative Research by Denzin and Lincoln, Writing Eth
10. 授業時間外学習：各項目についての下読みおよび宿題が必須である。
Students are required reparatory readings and some home works.
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

科目名：社会学特論Ⅱ／ Sociology(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：通年集中 その他 その他

セメスター： 単位数：2

担当教員：佐藤 哲彦

コード：LM98833, 科目ナンバリング：LIH-SOC606J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ディスコース社会学の基礎と実践
2. Course Title (授業題目)：Fundamentals and Practice of Discursive Sociology
3. 授業の目的と概要：この授業は「ディスコース社会学」と呼ぶる社会学的研究について論じるものである。ここでいう「ディスコース社会学」とは、質的調査の結果として得られたインタビュー・データや観察結果を用いて社会的な研究を成り立たせるための方法と、その方法から得られる知見によって形作られるものである。調査を行ってデータを得たからといって、それを理論や命題に「当てはめる」ということでは、社会的な研究は成り立たないし、そもそもそれが誤っていることもしばしばである。そこで、それらのデータを社会的な視点から眺め、そのデータで観察さ
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course discusses a sociological study that can be called "Discursive sociology". "Discourse sociology" refers both to the methods used to conduct sociological research using interview data and observations obtained as a result of qualitative research, and to the findings obtained from these methods. We often fit the data obtained through qualitative research into a theory or proposition. However it is not sociological research works and the insights obtained sometimes are fault. Therefore, we can only describe the subject sociologically by looking at the data from a sociological perspective and clarifying the phenomena observed in the data from a sociological perspective. In this class, we will discuss the "basic ideas of analysis" focusing on language and "specific methods of analysis" based on these ideas, which are necessary to be taken into account in this process. This is a central task for qualitative research, which does not consider reality as a manifestation of sociological theory or sociological propositions, but rather starts from reality to establish sociological thinking.
5. 学習の到達目標：この授業で講じる基礎と実践を通して、受講生が自分で得たデータや既存のデータを社会的に眺められるようになり、社会的分析の入り口に立たせるのが、この授業の目的である。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose and the aim of this class is to help students to view their own and existing data in the sociological ways through the fundamentals and practices taught in this class, and to get them to the point of entry into a sociological analysis.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 質的調査と質的分析
 2. 社会学的方法と社会的分析
 3. 言語に着目することの意義と課題
 4. ディスコース分析の基礎 (1) シークエンス
 5. ディスコース分析の基礎 (2) レリバンスとカテゴリー
 6. ディスコース分析の実践 (1) 構築プロセスの分析
 7. ディスコース分析の実践 (2) レパトワール分析
 8. 参与観察データの観察 (1) エスノグラフィーにおけるカテゴリー実践
 9. 参与観察データの観察 (2) 記述をめぐる問題
 10. インタビューデータの分析 (1) 記述をめぐる問題
 11. インタビューデータの分析 (2) シークエンスを観察する
 12. インタビューデータの分析 (3) インタビューにおけるカテゴリー実践
 13. ディスコース分析から社会的思考へ
 14. ディスコース社会学というプロジェクトの意義
 15. まとめ
8. 成績評価方法：

授業中の課題の提出と最終レポート
9. 教科書および参考書：

フランシス&ヘスター, 2014, 中河他訳 『エスノメソドロジーへの招待：言語・社会・相互行為』, ナカニシヤ出版/ウーフ
ィット, 1998, 大橋他訳『人は不思議な体験をどう語るか：体験記憶のサイエンス』, 大修館書店/シルバーマン, 2020,
渡辺忠温訳『良質な質的研究のための、かなり挑発的でとても実践的な本』, 新曜社/山田富秋, 2020, 『生きられた経
験の社会学：当事者性・スティグマ・歴史』, せりか書房/ギリバート&マルケイ, 1990, 柴田・岩坪訳『科学理論の現
象学』, 紀伊国屋書店/
10. 授業時間外学習：最終レポートに使用するために、自分の関心のあるデータを探索・収集しておいてください。それは必
ずしも自分自身の調査である必要はなく、YouTube などでも構いませんし、出版された手記などでも構いません。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：社会学特論Ⅲ／ Sociology(Advanced Lecture) III

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

Semester： 単位数：2

担当教員：妙木 忍

コード：LM23207, 科目ナンバリング：LIH-SOC607J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本の思想遺産・主婦論争を読む
2. Course Title (授業題目)：Japan's heritage of thought: Reading the Housewife Controversy
3. 授業の目的と概要：本授業では、フェミニズムの歴史を学ぶとともに、日本の思想遺産である主婦論争を解説することを目的としている。さらに、男性や社会にもかかわる論点がなぜ女性の論点として論じられてきたのか、なぜ女性のライフコース選択をめぐる論争が時代や論点の変容を経ても繰り返されるのかなど、社会のメカニズムについても考察する。さらに、東大祝辞（2019 年）を読み解くことを通して、日本におけるジェンダー問題を把握し、一人一人が生きやすい社会になるためにはどのようにしていきたいかを主体的に考える。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this course is to give an overview of the history of feminism and interpret the Housewife Controversy, part of Japan's heritage of thought. It also aims to analyze social mechanisms such as why the controversy revolved around women despite also concerning men and wider society, and why controversy regarding women's choice of life course continues even as the era and talking points change. Furthermore, through a reading of Chizuko Ueno's 2019 Matriculation Ceremony Congratulatory Address at the University of Tokyo, this course will help students grasp social problems in Japan from the perspective of gender, and explore how we can take independent action to change society.
5. 学習の到達目標：フェミニズムの歴史について理解する。
ジェンダーの視点から社会を読み解く力を身につける。
自分の問題関心にそって問いを立て、解くことができる力を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course is designed to help students understand the history of feminism. It also aims to consider social problems from the perspective of gender. Furthermore, it is intended to help students think about issues of concern to them, to pose their own questions about those issues, and to solve them.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
本授業は、講義を中心に進める。レスポンス・カードを用いた質疑応答や発表も取り入れる。内容および進度は以下の通りである。

第1回 インTRODakション
第2回 フェミニズムの歴史
第3回 ジェンダー研究の展開
第4回 家族の戦後体制
第5回 労働とジェンダー（統計データを読む）
第6回 主婦論争とは何か
第7回 第1次・第2次・第3次主婦論争
第8回 第4次主婦論争
第9回 第5次主婦論争
第10回 第6次主婦論争
第11回 主婦論争の通時的分析、日本におけるジェンダー規範の変容
第12回 発表と討論①
第13回 発表と討論②
第14回 東大祝辞（2019 年）を読む
第15回 まとめ
8. 成績評価方法：
授業への関与度（15%）、レスポンス・カードの提出（15%）、宿題（20%）、発表（20%）、レポート（30%）
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しない。レジュメを配布する。参考文献は適宜紹介する。
No textbook will be used. Handouts will be provided at every class. Reference materials will be introduced as necessary.
10. 授業時間外学習：授業の予習と復習、宿題、発表準備、レポート執筆。
Students are required to prepare and review for each class. Assignments may be given, and preparation for a presentation and an essay will also be required.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

毎回授業の最後にレスポンス・カードを提出する。

Students will be requested to complete a response card at the end of each class.

科目名：社会変動学研究演習Ⅱ／ Theory of Social Change(Advanced Seminar)II

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

セメスター：単位数：2

担当教員：田代 志門

コード：LM13208, 科目ナンバリング：LIH-SOC610J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：病いの語り研究の可能性
2. Course Title (授業題目)：Introduction to Illness Narrative Research
3. 授業の目的と概要：病いの語り (illness narrative) 研究とは、主に社会学と人類学において1980年代以降に発展してきた患者経験の研究の総称である。その焦点は、病いや痛み、苦悩の経験を言葉によって意味づけていく側面に着目しつつ、本人が自らの病いをどのように捉え、それにどう対処しようとしているのかを明らかにすることにある。本講義では病いの語り研究の古典の一つであるアーサー・W・フランクの『傷ついた物語の語り手——身体・病い・倫理』を取り上げ、その後の論争や関係する経験的研究を検討しつつ、その可能性と課題を検討する
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an overview of illness narrative research, focusing on the work of Arthur W. Frank.
5. 学習の到達目標：(1)『傷ついた物語の語り手』の内容を精確に理解する
(2) 病いの語り研究の課題を明確化し、新たな可能性を探る
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of this course is for students to understand the sociological concept of stigma and its application.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 演習の進め方について
 2. 病いの語り研究とは
 3. 『傷ついた物語の語り手』を読む (1)
 4. 『傷ついた物語の語り手』を読む (2)
 5. 『傷ついた物語の語り手』を読む (3)
 6. 『傷ついた物語の語り手』を読む (4)
 7. 『傷ついた物語の語り手』を読む (5)
 8. 『傷ついた物語の語り手』を読む (6)
 9. 『傷ついた物語の語り手』を読む (7)
 10. 『傷ついた物語の語り手』を読む (8)
 11. 中間まとめ
 12. 病いの語り研究に関する論争 (1)
 13. 病いの語り研究に関する論争 (2)
 14. 経験的研究の展開 (1)
 15. 経験的研究の展開 (2)
8. 成績評価方法：

授業内での報告・発言 50%、課題レポート 50%
9. 教科書および参考書：

Arthur W. Frank, The Wounded Storyteller: Body, Illness, and Ethics, The University of Chicago Press, 1995 (『傷ついた物語の語り手——身体・病い・倫理』ゆみる出版、2002年)
10. 授業時間外学習：毎回、授業前に該当文献を読み込み、自分の意見をまとめて授業に臨む。報告を担当する際は、関連する文献や資料にも目を配り、十分な検討のうえで報告資料を作成する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

受講者は初回に必ず出席してください。出席できない場合は、事前にメールで連絡してください。

科目名：社会変動学研究演習Ⅳ／ Theory of Social Change(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 火曜日 5講時

セメスター：単位数：2

担当教員：青木 聡子

コード：LM22509, 科目ナンバリング：LIH-SOC617J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：記憶継承の社会学
2. Course Title (授業題目)：Sociology of memory inheritance
3. 授業の目的と概要：戦争、災害、差別など、一般的にネガティブな感情をともなう記憶（＝いわゆる「負の記憶」）に、人びとはいかに集合的に向き合ってきたのか。この授業では、「負の記憶」を語ること、聞くこと、そして継承することに着目して、現代社会のあり様を考えることを目的とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：How have people collectively faced memories that generally involve negative emotions, such as wars, disasters, and discrimination (so-called ``negative memories'')? The purpose of this class is to consider the state of modern society by focusing on talking about, listening to, and passing on "negative memories."
5. 学習の到達目標：記憶の継承をめぐる様々な論点を理解し、それらを文化的、政治的、社会的文脈の中に位置づけられるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goal of this course is for students to understand the various issues surrounding the inheritance of memory and to be able to place them in cultural, political, and social contexts.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 ガイダンス——授業の進め方について
 - 2 経験を語ることの社会学(1)
 - 3 経験を語ることの社会学(2)
 - 4 経験を語ることの社会学(3)
 - 5 経験を語ることの社会学(4)
 - 6 経験を語ることの社会学(5)
 - 7 経験を語ることの社会学(6)
 - 8 経験を語ることの社会学(7)
 - 9 経験を語ることの社会学(8)
 - 10 経験を聞くことの社会学(1)
 - 11 経験を聞くことの社会学(2)
 - 12 経験を聞くことの社会学(3)
 - 13 経験を聞くことの社会学(4)
 - 14 経験を聞くことの社会学(5)
 - 15 まとめ——制度化される記憶とその相対化
8. 成績評価方法：

授業での報告およびディスカッションへの参加 40%、課題レポート 60%
9. 教科書および参考書：
 - テキスト：時間ごとに文献を指定します
 - 参考書：
 - (1) 関礼子編, 2023, 『語り継ぐ経験の居場所——排除と構築のオラリティ』新曜社.
 - (2) 石井弓, 2013, 『記憶としての日中戦争——インタビューによる他者理解の可能性』研文出版.
10. 授業時間外学習：指定されたテキストを事前に読んで、自分なりに論点を整理しておいてください。授業中に出される課題のために授業時間外の作業を要する場合があります。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
 - 《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：

初回は必ず出席してください。やむを得ない理由で出席できない場合には、事前にメールで連絡をください。

科目名：理論社会学研究演習 I / Theoretical Sociology(Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：小松 丈晃

コード：LM12206, 科目ナンバリング：LIH-SOC611J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：リスクと不確実性の社会学

2. Course Title (授業題目)：Sociology of Risk and Uncertainty

3. 授業の目的と概要：不確実性やリスクは、災害・環境・健康・科学技術・犯罪等といった多様な問題領域と関わり合いながら、昨今の社会学でも重要な概念の一つとなっている。この授業ではリスクや不確実性に関する社会学の定評あるテキストを取り上げ、多様なテーマをリスク概念と関連づけながら議論していくことで、受講生とともに、「リスク社会化」する社会を、社会的にいかにか論じるかを探ってみたい。とくに、いわゆる「リスク社会」論では相対的に見過ごされてきたジェンダーとリスクとの関連について、考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：“Risk” and “uncertainty” are treated as the basic concepts of sociology today. Those are related to the various subjects such as disaster, environmental problem, crime, and technological crisis. In this course, we will discuss the way to describe the modern society which has become a “risk society” through doing a close and careful examination of the text. Particularly, we will discuss the relationship between gender and risks, which has been somewhat overlooked in so-called “risk society” theory.

5. 学習の到達目標：・社会学の外国語専門文献の読解方法を習得する

・リスクや不確実性を社会的に論じるさいの基本的視角を学ぶ

・ジェンダーとリスクとの関連を捉えるための視角を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The main goals of the course are:

(1) Students will develop the reading skills to understand the sociological English texts

(2) Student will find a clue for addressing the problem of risk and uncertainty sociologically.

(3) Students will be able to develop a perspective to capture the relationship between gender and risks.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODakション

2. リスク論の社会(科)学的基礎

3. リスクと社会理論

4. ジェンダー化されたリスクの視点(1)

5. ジェンダー化されたリスクの視点(2)

6. ジェンダー化されたリスクの視点(3)

7. ジェンダー化されたリスクの視点(4)

8. リスク、エッジワーク、マスキュリニティ(1)

9. リスク、エッジワーク、マスキュリニティ(2)

10. リスク、エッジワーク、マスキュリニティ(3)

11. リスク、エッジワーク、マスキュリニティ(4)

12. 犯罪のリスクとジェンダー(1)

13. 犯罪のリスクとジェンダー(2)

14. 犯罪のリスクとジェンダー(3)

15. まとめ

8. 成績評価方法：

平常点 50%と提出レポート 50%による。

9. 教科書および参考書：

Kelly Hannah-Moffat and Pat O’Malley(eds.), 2007, “Gendered Risks”, Routledge-Cavendish

J. O. Zinn, 2008, “Social Theories of Risk and Uncertainty”, Blackwell.

10. 授業時間外学習：受講者は全員、授業時間外に、毎回対象となるテキスト（英語）を読み、授業時間までに、報告レジュメを作成し論点や疑問点を提示しなくてはならない。入念な予習と復習が要求される。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○” Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：理論社会学研究演習Ⅳ／ Theoretical Sociology(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

セメスター：単位数：2

担当教員：永井 彰

コード：LM23510, 科目ナンバリング：LIH-SOC614J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：地域社会学の理論と論点
2. Course Title (授業題目)：Theories and issues of regional sociology
3. 授業の目的と概要：地域社会を研究するための基礎理論を学ぶとともに、地域社会研究において重要な論点（地域ケア、地域医療、地域自治、地域福祉、住民自治組織など）について、資料の検討と議論をつうじて理解を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will learn the basic theory for studying the local community, and will understand important issues in community research (community care, community medicine, local governance, community welfare, inhabitant organizations, etc.) through examination and discussion of materials.
5. 学習の到達目標：日本の地域社会を研究するための基礎理論について理解できるようになる。
日本の地域社会を研究するための重要な論点について理解できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will be able to understand the basic theories for studying the Japanese community.
Students will be able to understand important issues for studying the Japanese community.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. 農村地域社会の理論（1）
 3. 農村地域社会の理論（2）
 4. 農村地域社会の理論（3）
 5. 地域ケア・システムと地域社会（1）
 6. 地域ケア・システムと地域社会（2）
 7. 地域医療の展開と地域社会の変貌（1）
 8. 地域医療の展開と地域社会の変貌（2）
 9. 地域医療・地域福祉とローカルガバナンス（1）
 10. 地域医療・地域福祉とローカルガバナンス（2）
 11. 公私協働とは何か（1）
 12. 公私協働とは何か（2）
 13. ソーシャルインクルージョン
 14. 総括討論（1）
 15. 総括討論（2）
8. 成績評価方法：
課題提出による（事前課題の提出を含む）。
9. 教科書および参考書：
参考文献は、クラスルームにおいて指示する。
10. 授業時間外学習：授業参加にあたっては、クラスルームにおいて事前に提示された課題を提出しなければならない。クラスルームに提示された参考文献についても、事前に読むことが必要である。授業後は、授業内容についての確認レポートを提出する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
演習参加者には、授業に関連するテーマについて報告をしてもらう。

科目名：社会学研究実習 I / Sociology (Research) I

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時. 前期 金曜日 4 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：青木 聡子

コード：LM15309, 科目ナンバリング：LIH-SOC615J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会調査実習

2. Course Title (授業題目) : Social Research Methods

3. 授業の目的と概要：質的調査手法を実践的に理解し、社会調査の設計から結果の公表までの一連の過程を習得することを目的とする。

社会調査の基本知識・手法を学び、フィールドワーク（聞き取り調査、参与観察、資料収集など）をおこなう。調査データを整理し分析することを通じて、質的調査を遂行する能力を身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The purpose of this course is to gain a practical understanding of qualitative research methods and to master the series of processes from social research design to publication of results. In this class, students learn the basic knowledge and methods of social research, conduct fieldwork (interviews, participant observation, data collection, etc.)

5. 学習の到達目標：調査設計、調査データの収集と分析を通じて、質的調査を遂行する能力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The goal of this class is to acquire the ability to conduct qualitative research by organizing and analyzing research data.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス——社会調査と質的調査
- 2 研究倫理と社会調査の設計方法
- 3 質的調査の方法(1)
- 4 質的調査の方法(2)
- 5 質的調査の方法(3)
- 6 質的調査の方法(4)
- 7 質的調査の方法(5)
- 8 調査テーマの検討(1)
- 9 調査テーマの検討(2)
- 10 調査テーマの検討(3)
- 11 先行研究と調査対象の検討
- 12 予備調査
- 13 問いの設定と調査項目の検討(1)
- 14 問いの設定と調査項目の検討(2)
- 15 調査依頼の作成

8. 成績評価方法：

授業時の平常点 50 %、課題レポート 50%

9. 教科書および参考書：

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美, 2016, 『質的社会調査の方法』有斐閣.

蘭由岐子, 2017, 『「病いの経験」を聞き取る [新版] ——ハンセン病者のライフヒストリー』生活書院.

10. 授業時間外学習：この授業は 4-5 人からなるグループに分かれて調査をおこなう。授業時間には各グループからの報告をおこなってもらうため、グループごとに時間外の作業をおこなうことになる。具体的には、各段階での課題の検討や、必要な準備などである。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

後期の社会学研究実習 II と連続で履修してください。

初回は必ず出席してください。やむを得ない理由で出席できない場合には、事前にメールで連絡をください。

科目名：社会学研究実習Ⅱ／ Sociology (Research) II

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時, 後期 金曜日 4 講時

セメスター： 単位数：2

担当教員：青木 聡子

コード：LM25307, 科目ナンバリング：LIH-SOC616J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会調査実習Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Social Research Methods 2

3. 授業の目的と概要：質的調査手法を実践的に理解し、社会調査の設計から結果の公表までの一連の過程を習得することを目的とする。

社会調査の基本知識・手法を学び、フィールドワーク（聞き取り調査、参与観察、資料収集など）をおこなう。調査データを整理し分析することを通じて、質的調査を遂行する能力を身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose of this course is to gain a practical understanding of qualitative research methods and to master the series of processes from social research design to publication of results. In this class, students learn the basic knowledge and methods of social research, conduct fieldwork (interviews, participant observation, data collection, etc.)

5. 学習の到達目標：調査設計、調査データの収集と分析を通じて、質的調査を遂行する能力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goal of this class is to acquire the ability to conduct qualitative research by organizing and analyzing research data.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス—調査倫理の説明、聞き取り調査のシミュレーションなど
- 2 データ収集(1) (聞き取り調査、参与観察、文書資料の取集など)
- 3 データ収集(2) (聞き取り調査、参与観察、文書資料の取集など)
- 4 データ収集(3) (聞き取り調査、参与観察、文書資料の取集など)
- 5 データ収集(4) (聞き取り調査、参与観察、文書資料の取集など)
- 6 分析方針の検討
- 7 調査結果の整理、分析(1)
- 8 調査結果の整理、分析(2)
- 9 調査結果の整理、分析(3)
- 10 追加調査の実施
- 11 調査報告書の作成(1)
- 12 調査報告書の作成(2)
- 13 調査報告書の作成(3)
- 14 調査報告書の作成(4)
- 15 調査報告会 (口頭発表)

8. 成績評価方法：

授業時の平常点 50 %、課題レポート 50%

9. 教科書および参考書：

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美, 2016, 『質的社会調査の方法』有斐閣.

蘭由岐子, 2017, 『「病いの経験」を聞き取る [新版] ——ハンセン病者のライフヒストリー』生活書院.

10. 授業時間外学習：この授業は 4-5 人からなるグループに分かれて調査をおこなう。授業時間には各グループからの報告をおこなってもらうため、グループごとに時間外の作業をおこなうことになる。具体的には、各段階での課題の検討や、必要な準備などである。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

社会学研究実習（社会調査実習Ⅰ）とあわせて履修してください。